

(国民勲章石留音)

本日貴国政府より身に余る褒章の栄に浴しまして、私として恐縮の極みに存じ、感謝の念に耐えません。これひとえに、本席の韓国原産李教すん副会長、初代事務局長を勤められた李大熙さん並びにご臨席の皆様の御推薦によるものと、厚く御礼申し上げます。

私の受賞の理由として、貴国を始めとする各国との原子力国際協力への功績があげられています。これは、私が40年来、当然の仕事として当たり前のことをしただけであります。ただ、わが日本では20年位前までは、「国際協力」といえば、アメリカ中心の先進国に「おねだりすること」と皆が考えていた中であって、私が原爆で両親はじめ5人の家族を失った経験のためでしょうか、原子力はもう決して軍事に使ってはいけない、平和利用に徹し、国内のみならず世界中の人々の幸福に役立てなければならない、と考え続けて来ました。そして、「そんな協力が何になるのか」といった陰口など聞こえないフリをして、先進国以外のいくつかの国との間に道を開いてきました。しかしこれも、韓国の場合と同様、相手国の方に、皆さんのような、心温かく先見ある友達がいてくださったお陰で成功したのであって、決して私独りの力ではありません。

さて、いつも私の頭を去来する問題は、「何故」韓国と日本とがこんなにまずい関係になってしまったのか、ということです。「閔妃暗殺」という本(これは日本人の間で隠れたベストセラーになっています)を、出発前私はもう一度読みなおしてきましたが、歴史的に日本の責任は明々白々で、暗澹たる気持ちに襲われるばかりです。

私は、我が家の「系図」の冒頭部分のコピーを持っています。それによると約900年前の祖先は、「新羅三郎義光」という半島からの渡来文化人なのです。このように血統上も濃密な関係にある両国民が何の運命で、こんな不幸な関係を続けているのか、歴史の中に教訓を見いだすことも大切でしょう。

しかしながら、世界の情勢を見渡すとき、あまり大きくない我々二国は安閑としていいのでしょうか。欧州は既に一つの共同体EUに統合しました。世界は各地域でブロック化が進んでいます。何故文化的にも似通った東アジアで、「統合」の動きがないのか。もし統合が出来たら、その力のすばらしさは(軍事力でなく経済的に文化的に)他のブロックに勝るとも劣らないであろうことは、皆さんも同意されるでしょう。

話を早く終わらせるため、例示に止めます。EU統合のときイニシャチブをとったのは、フランスと西欧の賢人でした。ドイツは力はある(日本と同じ理由で)イニシャチブをとる資格がなかった。同じく不幸な悲惨な歴史を乗り越え、じっくりと話し合いを積み上げ営々と努力を重ねたヨーロッパの英知は、人類史上最高のものでした。私が貴国に、何を期待するしているか、もう分かって下さるでしょうね。

最後に私のため、このすばらしい席を設けて頂いたことに、心から感謝いたします。韓国原産ならびに御臨席の皆様の末永きご発展をお祈り申し上げます。また、ご出張中の李宗勲原産会長には、くれぐれも宜しくお伝え下さいませ。